

心のつながりシート



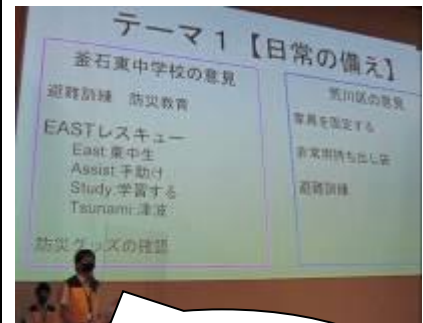
被災地と心でつながろう



①今年度も新型コロナウイルス感染症による感染拡大により被災地訪問を断念せざるを得ませんでしたが、岩手県の釜石東中学校と荒川区の代表生徒が、ビデオ会議システムを活用して、防災について意見交換を行いました。

②震災当時、釜石東中学校の2年生で現在、釜石市にある「いのちをつなぐ未来館」に勤務されている講師から実体験を基に講話をしていただきました。

津波は時速約40kmで、車と同じくらいの速さと知って驚きました！



日常の備えが大切です。自宅に防災バッグはありますか？

③報告会ではオンライン交流で学んだことを、荒川区立図書館「ゆいの森あらかわ」にて発表しました。報告会は、これまでの学びの集大成となりました。

(1) 取組の内容や工夫点

例年、荒川区の各中学校代表生徒2名、計20名が被災地（岩手県釜石市等）を訪問し、南三陸町防災対策庁舎の見学や現地の防災士の方から直接お話を伺い、防災について学んでいる。本区図書館で報告会を実施し、多くの人々の防災意識の向上に努めている。昨年度に引き続き、実際に被災地を訪問することはできなかったが、今年度は昨年度叶わなかったオンライン上で釜石市とつながることができた。オンライン交流では防災士の方の講話や、現地の中学生と防災についての学習や意見交換を実施し、防災について学びを深めることができた。

(2) 生徒の感想（事後感想文より）

現地の中学生は常に明るく、ポジティブ思考であることに驚きました。オンライン上で話をしている中で、震災のことを決して忘れてはいけないという強い意思を感じました。この取組を通じて、災害、地震や津波に対する理解を深めていこうと思います。